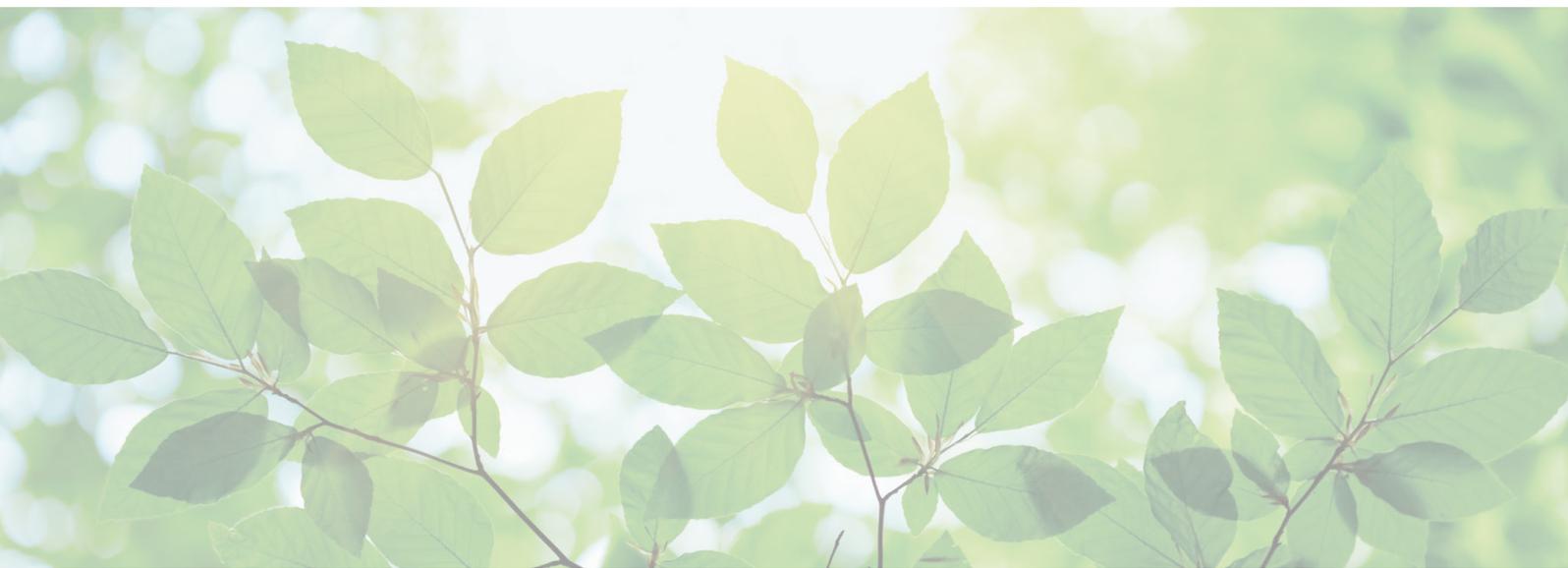


高齢社会総合研究国際卓越大学院

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology:
Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society
(略称:WINGS-GLAFS)

プログラムの概要	110
プログラム担当教員	113
応募状況と合格者	115
WING-GLAFSの全体像	116
学生の業績	117



プログラムの概要

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齢社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齢者を研究対象とする方に限らず、高齢社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、対象としています。

■1_プログラム参照専攻(2022年度)

本プログラムは、以下の専攻に所属する学生が履修することができます。

【工学系研究科】	全専攻
【人文社会系研究科】	社会文化研究専攻
【教育学研究科】	総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻
【法学政治学研究科】	総合法政専攻
【総合文化研究科】	広域科学専攻
【農学生命科学研究科】	生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻
【医学系研究科】	社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻
【新領域創成科学研究科】	人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、国際協力学専攻
【情報理工学系研究科】	知能機械情報学専攻
【学際情報学府】	学際情報学専攻

■2_カリキュラム

<必修・座学>

高齢社会総合研究学通論Ⅰ・Ⅱ(1単位×2科目・2単位)

・俯瞰力の修得

高齢社会の基礎を「心と体の健康」、「社会環境」の2側面から効率的に理解し、「俯瞰力」を養います。

<必修・演習>

・現場解決力(1単位×1科目・1単位)

活力ある超高齢社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、上記の座学に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験する。

<選択必修> 高齢社横断科目群(4単位以上)

・領域連携力の修得

超高齢社会の視点で、自らの専門領域あるいは他の領域を、各専攻から提供される幅広い科目から選択して学び、「領域連携力」を養います。

IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference 2022年度 参加報告

IARU (International Alliance of Research Universities) とは9か国11大学が参加する、学生の分野横断型の連携と国際的なコラボレーションに重きを置く連盟です。IARUは定期的に学生のための交流カンファレンスを開催しますが、今年度は高齢社会と長寿、健康をテーマにカンファレンスが開催されました。

日程：2022年10月19日から21日

開催場所：デンマーク・コペンハーゲン

参加学生：6期 D3 Neo Kazembe (国際保健)、7期 D1 鈴木はるの (健康科学・看護学)

*旅費・宿泊費をIARU本部およびWINGS-GLAFSより支援



Early carrier researcherとして博士後期課程の学生とポストドクの研究員の15名が各国より参加



3日目のネットワーキング研究者の卵として、指導教員とどのようなコミュニケーションを取れば良いのか等が議論された

プログラムスケジュール

- 全3日間のカンファレンス
- 1日目：自身の研究紹介
- 2日目：ワークショップ
- 3日目：ネットワーキングに関する議論
- 3日間を通して昼と夜には会食
- 各国の高齢者研究の実態を知り、各国の文化の違いについて会話を楽んだ



スタジオ(高齢社会総合研究学演習)

IARU(国際交流)

<全体研究発表会> 多領域連携

(演習発表/博士論文進捗発表会)

演習履修者には、年に2回の全体研究発表会を設け、それぞれの演習の成果を発表する。加えて、博士後期課程及び4年制博士課程の学生は博士論文進捗状況の発表を行い、異分野の研究手法等を学び合う場をつくる。

■ 3_ 開講科目

2022年度開講科目一覧

2022年度カリキュラム一覧									
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当 教員名	曜日	時限 (開始・終了)	必修選択必修	開講日講義室名 その他特記事項	
講義(必修)									
3799-461	高齢社会総合研究学通論1 高齢者の体と心:老いとつきあう	1	A 1	飯島	水	5限 16:50-18:35	必修	10/5~11/30 オンライン	
3799-462	高齢社会総合研究学通論2 高齢社会のリ・デザイン	1	S 2	大月	木	5限 16:50-18:35	必修	6/9~7/21 オンライン	
講義(選択必修:6単位以上取得※)									
3799-225	高齢社会総合研究学特論IV 高齢社会のケア・サポート・システム	2	A 2	飯島	水	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	12/7~1/25 オンライン	
3799-226	高齢社会総合研究学特論V 地域農業マネジメント	2	A 2	八木	火 金	5限 17:05-18:35	選択必修	11/29~(週2回) オンライン	
3799-227	高齢社会総合研究学特論VI 地域	2	A 1 A 2	樋口	木	3限 13:00-14:45	選択必修	オンデマンド	
3799-231	高齢社会総合研究学特論X ジェロントロジー	2	A 1 A 2	檜山 二瓶	木	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	オンライン	
実習(選択必修:6単位以上取得)									
3799-234	高齢社会総合研究学実習I	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	オンライン (対面実施の場合:工学部8号館722号室他、 各スタジオ担当教員の指示による)	
3799-235	高齢社会総合研究学実習II	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-236	高齢社会総合研究学実習III	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-237	高齢社会総合研究学実習IV	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-238	高齢社会総合研究学実習V	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-239	高齢社会総合研究学実習VI	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-240	高齢社会総合研究学実習VII	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-241	高齢社会総合研究学実習VIII	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	
3799-259	高齢社会総合研究学演習X	1	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上	

■4_プログラムの修了要件

本プログラムでは、修士課程1年次修了時点のQualifying Examination 1 (QE1)、修士課程2年次修了時点のQualifying Examination 2 (QE2)、並びに博士課程修了時のFinal Examination (FE) の合計3回審査を行います。

■修士課程修了時 資格審査(QE: Qualifying Examination)

- ・「単位要件」等によって考査します。
- ・単位要件：通論（必修）1単位以上の取得。

■修士課程修了時 資格審査(QE2: Qualifying Examination2)

- ・「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって考査します。
- ・単位要件：通論（必修）2単位の取得と高齢社会横断科目群2単位以上の取得。
- ・学振要件：日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC1）に申請。
- ・博士課程進学の確認：面接により博士後期課程進学予定を確認。

■博士課程修了時 修了審査(FE: Final Examination)

FEでは、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」、「博論要件」によって考査します。この考査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定が付記されます。

- ・単位要件：通論(必修)2単位と、実習(必修)1単位以上と、高齢社会横断科目群(選択必修)4単位以上、合計7単位以上取得
- ・発表要件：博士課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数
の博論研究進捗発表
- ・学振要：日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC2)に申請
- ・博論要件：提出した博士論文の発表を通じて、高齢社会の基礎
の理解を踏まえているかを考査

■5_経済的支援(卓越RA)

経済的支援は、所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越RAとして委嘱します。

修士課程2年次、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額18万円を上限に支給します。

プログラム担当教員

*所属・職名は2023年3月末現在

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
染谷 隆夫	工学系研究科・研究科長、電気系工学専攻・教授
大月 敏雄	工学系研究科建築学専攻・教授、高齢社会総合研究機構・副機構長
飯島 勝矢	高齢社会総合研究機構・機構長／未来ビジョン研究センター・教授
祐成 保志	高齢社会総合研究機構・副機構長／大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・准教授
井口 高志	大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻・准教授
高橋 美保	大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授
北村 友人	大学院教育学研究科 学校教育高度化専攻・教授
加藤 淳子	大学院法学政治学研究科 総合法政専攻・教授
横山 ゆりか	大学院総合文化研究科 広域科学専攻・教授
福田 大輔	大学院工学系研究科 社会基盤学専攻・教授
松田 雄二	大学院工学系研究科 建築学専攻・准教授
小泉 秀樹	大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授
柳澤 秀吉	大学院工学系研究科 機械工学専攻・准教授
鈴木 雄二	大学院工学系研究科 機械工学専攻・教授、工学系研究科・副研究科長
横野 泰之	大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構・上席研究員
浅間 一	大学院工学系研究科 精密工学専攻・教授
青山 和浩	大学院工学系研究科 システム創成学専攻・教授
小紫 公也	大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻・教授
峯松 信明	大学院工学系研究科 電気系工学専攻・教授
求 幸年	大学院工学系研究科 物理工学専攻・教授
吉田 英弘	大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻・教授
山口 和也	大学院工学系研究科 応用化学専攻・教授
伊藤 大知	大学院工学系研究科 化学システム工学専攻／大学院医学系研究科 附属疾患生命工学センター・教授
森本 淳平	大学院工学系研究科 化学生命工学専攻・講師
檜山 敦	大学院工学系研究科 先端学際工学専攻・特任教授
藤井 康正	大学院工学系研究科 原子力国際専攻・教授
酒井 崇匡	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・教授
古川 克子	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・准教授
茂木 源人	大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻・教授
高木 強治	大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻・教授
霜田 政美	大学院農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻・教授

応募状況と合格者

	2020年度	2021年度	2022年度
プログラム募集定員数	10人	14人	10人
応募学生数	7人	31人	26人
うち留学生数	0人	10人	8人
うち自大学出身者数	2人(0人)	13人(0人)	9人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	18人(10人)	17人(8人)
うち社会人学生数	4人(0人)	3人(3人)	5人(5人)
うち女性	3人(0人)	9人(4人)	6人(3人)
合格者数	7人	14人	10人
うち留学生数	0人	2人	1人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)	6人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)	4人(1人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)	0人(0人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)	1人(0人)
②のうち受講学生数	7人	14人	10人
うち留学生数	0人	2人	1人(0人)
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)	6人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)	4人(1人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)	0人(0人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)	1人(0人)
プログラム合格率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.00倍	2.21倍	2.6倍
充足率(合格者数/募集定員)	70%	140%	100%

※ 博士入学生 2020年度、2021年度：3年制博士1年次 各1名、2022年度：4年制博士1年次 1名

※()は留学生の人数

※ 2021年度は、2回(4月、9月)募集の合計

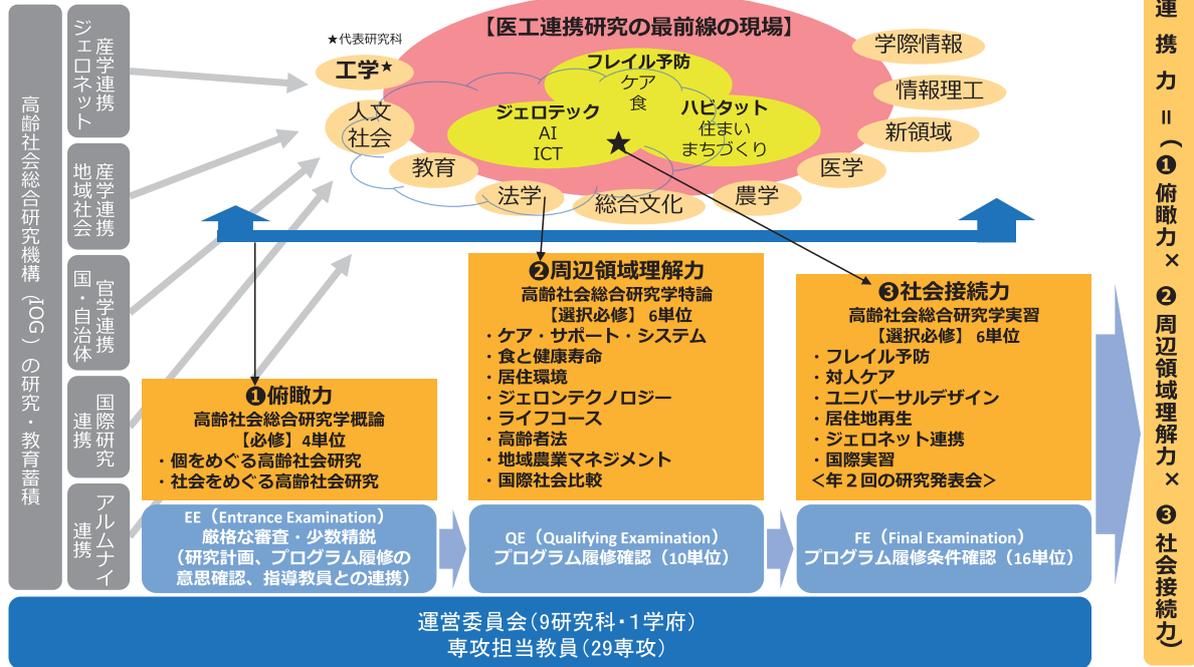
※各年度：各年度未現在

WING-GLAFSの全体像

■ 2020年スタート時

高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS

日本を皮切りに世界中のあらゆる領域でデフォルトとなっていく高齢社会特有の課題解決に向けて、**高齢社会総合研究学（ジェロントロジー）の体系を踏まえつつ、医工連携研究の最前線の現場で俯瞰力、周辺領域理解力、社会接続力を育みながら、研究の多領域連携力を身につけた人材**



■ 2022年度～



学生の業績

GLAFS の学生が 2022 年度に発表した研究論文や学会発表などの業績について紹介します。

リーディング生

Neo Kazembe

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Namasaba M, Kazembe N, Seera G, Baguwemu AA. Broadening the scope of social support, coping skills and resilience among caretakers of children with disabilities in Uganda: a sequential explanatory mixed-methods study. BMC Public Health. 2022 Apr 8;22 (1):690. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Kazembe N. Transition to skipped-generation households: Mental health Implications for older adults in rural Malawi. IARU Aging, Longevity and Health Conference 2022, University of Copenhagen, Denmark, 19–21 October 2022. 査読有

田中 萌子

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

【著書、編著】

1. 田中萌子. Part4 異常がある場合の看護過程の展開, 事例1 妊娠糖尿病. 古川亮子(編). プチナース BOOKS 経過・ウェルネスの視点でみる 母性看護過程. 照林社, 2023: pp72-87.

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Tanaka M, Ohyama T, Ohori R, Aoyama S, Yonezawa K, Sasagawa E, Usui Y, Fujita M, Matsuzaki M, Shiraiishi M, Hikita N, Suetsugu Y, Haruna M. Exercise and leisure time activities among pregnant women under the COVID-19 Pandemic in Japan. ASPA 2022 Conference. Melbourne, Australia, 2022.11.28-29. 査読有
2. Ohyama T, Tanaka M, Ohori R, Aoyama S, Yonezawa K, Sasagawa E, Usui Y, Fujita M, Matsuzaki M, Shiraiishi M, Hikita N, Suetsugu Y, Haruna M. Trends and characteristics of physical activity during pregnancy under the COVID-19

Pandemic in Japan: the observational study. ASPA 2022 Conference. Melbourne, Australia, 2022.11.28-29. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 孫輔卿, 三浦貴大, 角川由香, 藪謙一郎, 呂偉達, 金東律, 楊映雪, 田中萌子, 佐藤雄太, 飯島勝矢. オンライン型フレイルチェック開発および実装参加を通じた高齢市民のエンパワーメント向上. 第64回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2022.6.2-4. 査読有

寺澤 さやか

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Terazawa S. Relationship between socioeconomic class and access to Assisted Reproductive Technology in Japan. CSRDA Discussion Paper Series, 2023; 40: 1-17. 査読無

【著書、編著】

1. 寺澤さやか. 松永伸太郎, 園田薫, 中川宗人(編). 21世紀の産業・労働社会学: 「働く人間」へのアプローチ. ナカニシヤ出版, 2022: pp141-159.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 寺澤さやか. 不妊治療へのアクセスと女性の労働環境. 第93回日本社会学会大会 2020.10.1. オンライン開催. 査読有
2. 寺澤さやか. 不妊治療と仕事の両立の規定要因—支援制度と職場環境に着目して—. ワーク・ライフ・バランス&多様性推進・研究プロジェクト 2022年度第3回研究会, 東京, 2022.7.20. 査読無

中野 航綺

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 中野航綺. 地域内の緊張関係への認識はいかに変化したのか—社会福祉基礎構造改革以前 / 以後での地域福祉計画を巡る記述—. 大原社会問題研究所雑誌, 2022; 767・768: 94-110. 査読無

2. 宮地俊介, 中野航綺. ラジオ体操の地域社会学 —「緩やか」に繋がる人々のエスノグラフィ, ソシオロギス, 2022; 46: 195-212. 査読有

3. 中野航綺. 地域福祉計画策定過程における住民参加の実態調査『参加』のバリエーションとその背景に着目して, 生協総研賞・第19回助成事業研究論文集, 2023: 28-43. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 中野航綺. 地域福祉における「住民」概念の変化—地域福祉計画で想定された住民像に着目して. 日本大学文理学部 第1回文理研究交流アワードプログラム, 東京, 2022. 10. 1. 査読無

2. 中野航綺. 地域福祉における「住民」概念の変化—地域福祉計画で想定された住民像に着目して. 日本大学文理学部 第1回文理研究交流アワードプログラム, 東京, 2022. 10. 1. 査読無

● 受賞歴

1. 2022年10月第1回文理研究交流アワード ベストプレゼンテーション賞受賞(中野航綺. 地域福祉における「住民」概念の変化—地域福祉計画で想定された住民像に着目して. 日本大学文理学部 第1回文理研究交流アワードプログラム)

中山 莉子

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 中山莉子. 認知症高齢者と家族のコミュニケーションにおける課題に関する研究の動向. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 2023; 62: 659-669. 査読無

2. 山田詢介, 山口友菜, 中山莉子, 高橋美保. “メンタルヘルス・スラング”を自称使用することの効果に関する探索的検討. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 2023; 46: 000-000.

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 中山莉子. ひとり暮らしの認知症とともに生きる人の在宅生活上の困難とインフォーマルな地域拠点における支援. 認知症ケア事例ジャーナル, 2022;15 (3):184-189. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Nakayama R. How Do Family Caregivers Interpret Dementia-Related Changes in Older People Living with Dementia, ADI Asia Pacific Regional Conference, Taipei, Taiwan, 2022.12.8-11. 査読有

2. Takase, M., Ogino, R., Nitandai, R., Nakayama R., Kim, H., Kazembe, N., Goto, Jun., Iijima, K. Types Of Attendees In Community Space In Japan: Toward Designing A Nenvironment For Social Participation, Gerontological Society of America (GSA) 2022 Annual Scientific Meeting, Indianapolis, USA, 2022.11. 2-6. 査読有

3. Takase, M., Ogino, R., Nitandai, R., Nakayama, R., Kim, H., Kazembe, N., Goto, Jun., Iijima, K.

4. Social Interactions Of Community Space Attendees And

5. Anticipated Function Of The Space A Mid the Covid - 19 Pandemic,

6. Gerontological Society of America (GSA) 2022 Annual Scientific Meeting, Indianapolis, USA 2022.11. 2-6. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 中山莉子・岡村毅・枝広あや子・見城澄子・森倉三男・岡村睦子・釘宮 由紀子・永瀬 雅子・宮前 史子・杉山 美香・多賀 努・栗田主一. 認知症とともに生きる高齢者はどのような買い物にまつわる困難を抱くのか?—地域拠点における約2年間の Community-based participatory research から— 第23回認知症ケア学会, オンライン. 2022. 6.18-10.31 査読有

新田 真悟

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 新田真悟, 村山洋史, 菅原育子. 移動経路にみる就業高齢者の特徴と就業理由 ---- 自己開拓に着目して. 応用老年学. 2022年8月; 16 (1) 23-29. 査読有

2. 新田真悟. 配偶者および子どもとの資源配分にみる高齢男性の就業選択. 老年社会科学. 2022年10月; 44 (3) 231-241. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 新田真悟. 年齢による職域分離—趨勢と内実の検討. 第95回日本社会学会大会, 大阪, 2022.11.12. 査読無

2. 新田真悟. 職業経歴を通じた職業スキルの軌跡: ジェンダー・学歴による長期的な軌跡の違いに着目して. 第74回数理社会学会大会, 茨城, 2023.3.8. 査読無

日隈 脩一郎

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 日隈脩一郎. 学内 MLA 連携によるアーカイブズのアウトリーチ論 ——東京大学東アジア藝文書院一高プロジェクトを例として. 人間文化研究機構国文学研究資料館 2022年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会通算第68回) 長期コース修了論文, 2022. 査読有

2. 日隈脩一郎. 悩ます二重の自己言及——自己啓発研究に依拠した2010年代前半 NHK 哲学番組の内容分析 東京大学大学院総合文化研究科科学技術インタープリター養成プログラム 2022年度修了論文, 2023. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 日隈脩一郎. 記録／映像の歴史実践—アーカイブズのアウトリーチ論としての. 日本学研究会第8回研究会・特別企画 映画『籠城』上映会 東北大学, 2022. 7. 30. 査読無
2. 高原智史, 日隈脩一郎. 映画『籠城』というプロセス—研究と制作のあいだ. 旧制高等学校記念館 第26回夏期教育セミナー, 2022. 9. 3. 査読無
3. 日隈脩一郎. 歴史資料を素材とした動的映像の組織化の検討. アート・ドキュメンテーション学会 第15回秋季研究集会予稿集, 2022. 9. 11. 査読有
4. 日隈脩一郎. 歴史教育再考—日常的な映像実践を歴史化するために. 京都大学映画メディア合同研究室第2回シンポジウム「映像と記憶／記録」, 2022. 10. 2. 査読有

楊 映雪

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yang Y. The Characteristics and Changes of Community Education in China: A Case Study of Residents' Participatory Community Education Activities in Shanghai. Comparative and International Education Society (CIES) 66th Annual Conference, Minneapolis, MN, 2022.4.18-22. 査読有

呂 偉達

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む) に発表した論文】

1. Lyu W, Tanaka T, Son BK, Akishita M, Iijima M. Associations of multi-faceted factors and their combinations with frailty in Japanese community-dwelling older adults: Kashiwa cohort study. Arch Gerontol Geriatr. 2022 Sep-Oct; 102:104734. 査読有
2. Lyu W, Tanaka T, Son BK, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima M. Associations of Nutrition-Related, Physical, and Social Factors and Their Combinations with Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: Kashiwa Cohort Study. Nutrients. 2022 Aug 27;14 (17):3544. 査読有
3. Tanaka T, Son BK, Lyu W, Iijima K. Impact of social engagement on the development of sarcopenia. among community-dwelling older adults: A Kashiwa cohort study. Geriatr Gerontol Int. 2022 May;22 (5):384-391. 査読有
4. Tanaka T, Yoshizawa T, Sugaya K, Yoshida M, Son BK, Lyu W, Tsushita K, Iijima K. Predictive validity of the Questionnaire for Medical Checkup of Old-Old for functional disability: Using the National Health Insurance Database System. Geriatr Gerontol Int. 2023 Jan 13. doi: 10.1111/ggi. 14533. 査読有
5. Son BK, Imoto T, Inoue T, Nishimura T, Lyu W, Tanaka T, Iijima K. Different reversibility of skeletal muscle mass and strength in elderly Japanese women after the first wave of

COVID-19. JCSM Rapid Communications. 2023 Jan 20. doi. org/10.1002/rco2.73. Online ahead of print. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 呂偉達. "＜サルコペニア＞". 月刊「カレントセラピー」(2022、Vol.40 No.5). 査読有
2. 呂偉達, 飯島勝矢. "＜サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル＞". 調剤と情報 2022.5 臨時増刊号 (Vol.28 No.7). 査読有
3. 呂偉達, 孫輔卿, 飯島勝矢. "＜フレイルと高齢者歩行障害＞". 日医雑誌 第151巻・第2号/2022年5月. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 呂偉達, 田中友規, 孫輔卿, 吉澤裕世, 秋下雅弘, 飯島勝矢 地域在住高齢者の栄養(食行動と口腔機能)・身体活動・社会性の複合的な実施とフレイル新規発症との縦断的検討. 第64回日本老年医学会学術集会、大阪, 2022.6.2-4. (ポスター発表) 査読有
2. 田中友規, 菅谷賢司, 吉田みどり, 吉澤裕世, 孫輔卿, 呂偉達, 飯島勝矢 「後期高齢者の質問票」の要介護新規認定に対する予測妥当性の検証: 医療介護レセプトデータの利活用によるコホート研究 第64回日本老年医学会学術集会、大阪, 2022.6.2-4. 査読有
3. 呂偉達, 田中友規, 孫輔卿, 吉澤裕世, 秋下雅弘, 飯島勝矢 地域在住高齢者の栄養(食行動と口腔機能)・身体活動・社会性の複合的な実施とフレイル新規発症との縦断的検討 第9回日本サルコペニアフレイル学会 ハイブリッド、滋賀 2022.10.29-30. (ポスター発表) 査読無
4. 川村淳, 田中友規, 菅野範, 大澤謙, 岡林一登, 永谷美幸、孫輔卿, 呂偉達, 飯島勝矢 地域在住高齢者の週30分以上のガム噛み習慣が高齢者の健康に与える影響についての検証: 柏スタディ第9回日本サルコペニアフレイル学会、滋賀 2022.10.29-30. 査読無
5. 佐藤麻美, 澁谷奈菜子, 貞清香織, 松本奈美, 鈴木和幸, 田中友規, 呂偉達, 孫輔卿, 飯島勝矢 コロナ禍における高齢者の社会活動の再開と残存する健康課題 ～平塚市と東京大学の官学連携研究の調査結果(3年間)からの洞察～第9回日本サルコペニアフレイル学会、滋賀 2022.10.29-30. 査読無
6. 澁谷奈菜子, 佐藤麻美, 貞清香織, 冨田明子, 田中陽子, 松本奈美, 鈴木和幸, 田中友規, 呂偉達, 孫輔卿, 飯島勝矢 フレイルチェック参加者におけるコロナ禍の健康・生活状態の変化～電話聞き取り調査の重要性および市民健康支援への再考～第9回日本サルコペニアフレイル学会、滋賀 2022.10.29-30. 査読無
7. 貞清香織, 佐藤麻美, 澁谷奈菜子, 松本奈美, 鈴木和幸, 田中友規, 呂偉達, 孫輔卿, 飯島勝矢 神奈川県平塚市在住高齢者のサルコペニアと口腔巧緻性に関する検討～市民フレイルサポーターによるフレイルチェック測定からの考察～第9回日本サルコペニアフレイル学会、滋賀 2022.10.29-30. 査読無
8. 佐野健太郎, 呂偉達, 上原優衣, 牧敦, 孫輔卿, 田中友規, 飯島勝矢 非接触ミリ波センサを用いた模擬住居環境内移動速度の推定(地域在住高齢者コホート研究での実測値との検

証) 第 58 期日本機械学会東北支部秋季講演会 Web 山形
2022.10.8. 査読無

9. 上原優衣、佐野健太郎、斎藤英美、宮田克也、呂偉達、孫輔卿、田中友規、飯島勝矢 フレイル予兆検知に向けた宅内移動速度による身体機能レベルの推定方法の提案第 37 回情報処理学会コンシューマ・デバイス&システム(CDS)研究会。査読無

林 忠賢

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 林忠賢. 台湾の生涯学習・この一年一社区大学と学校教育の連携による学びの可能性一. 東アジア社会教育研究, 2022; 27: 228-238. 査読無
2. 林忠賢. シリーズ暮らしと表現空間 酒工場から文化拠点への転身. 月刊社会教育, 2022; 794 (7):62-65. 査読無

WINGS 生

石川 健人

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. 石川 健人、チェンバーズ ジェームズ、中島 亘、内田 和幸、PB-20 犬の腸腺癌における胃腺上皮マーカーと β -catenin の発現に関する免疫組織学的検討、第 10 回 ASVP/ 第 10 回 JCVP 合同学術集会、東京、日本、2023.3.29-31. 査読無

江藤 人拓

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Hitohiro Etoh, Yuichiro Omura, Kohei Kaminishi, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki and Jun Ota: "Motion Generation of Anticipatory Postural Adjustments in Gait Initiation," The 22nd IEEE International Conference on Bioinformatics and BioEngineering (BIBE2022), 2022. 査読有 口頭発表
2. Hitohiro Etoh, Yuichiro Omura, Kohei Kaminishi, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki and Jun Ota: "Investigation of a Method to Extend a 2-Dimensional Gait to 3-Dimensions in a Human Musculoskeletal Model with 70 Muscles," 33rd 2022 IEEE International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (From Micro &

Nano Scale Systems to Robotics & Mechatronics Systems) (MHS2022), 2022. 査読有 口頭発表

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 江藤 人拓, 尾村 優一郎, 上西 康平, 千葉 龍介, 高草木 薫, 太田 順: "70 筋を有するヒトの筋骨格モデルにおける 2 次元歩行動作の 3 次元への拡張手法の検討," 第 40 回日本ロボット学会学術講演会, 2022. 査読無し口頭発表.
2. 江藤 人拓, 尾村 優一郎, 上西 康平, 長谷川 哲也, 四津 有人, 千葉 龍介, 高草木 薫, 太田 順: "70 筋を有する筋骨格モデルの 3 次元歩行のための制御パラメータ探索," 第 35 回自律分散システム・シンポジウム, 2022. 査読無し口頭発表
3. 上西 康平, 江藤 人拓, 千葉 龍介, 高草木 薫, 太田 順: "抽出する筋肉の数が筋シナジー解析結果に与える影響: 筋骨格シミュレーション結果を用いた調査," 第 35 回自律分散システム・シンポジウム, 2022. 査読無し口頭発表
4. 江藤 人拓, 尾村 優一郎, 上西 康平, 千葉 龍介, 高草木 薫, 太田 順: "歩行開始動作における予期的姿勢調節の動作計画," 第 3 回超適応全体会議, 2022. ポスター発表.
5. 江藤 人拓, 尾村 優一郎, 上西 康平, 千葉 龍介, 高草木 薫, 太田 順: "70 筋を有するヒトの筋骨格モデルにおける 2 次元歩行動作の 3 次元への拡張手法の検討," 第 4 回超適応全体会議, 2022. ポスター発表.
6. Chiba R, Etoh H, Omura Y, Kaminishi K, Takakusaki K, Ota J.: "A Control Model incorporating Physiological Knowledge for Elucidating Postural Control in Human," 第 99 回日本生理学会大会, 東北大学川内北キャンパス, 2022.

● 受賞歴

1. 2022 年 12 月「33rd 2022 IEEE International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Best Paper Award」受賞
(Hitohiro Etoh, Yuichiro Omura, Kohei Kaminishi, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki and Jun Ota: "Investigation of a Method to Extend a 2-Dimensional Gait to 3-Dimensions in a Human Musculoskeletal Model with 70 Muscles")
2. 2023 年 3 月 江藤 人拓 工学系研究科長賞(修士論文)

金沢 直晃

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Kento Kawaharazuka, Naoaki Kanazawa, Kei Okada, Masayuki Inaba. Self-Supervised Learning of Visual Servoing for Low-Rigidity Robots Considering Temporal

Body Changes. IEEE Robotics and Automation Letter, 2022; Vol.7, No.3, pp.7881-788. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Kento Kawaharazuka, Naoaki Kanazawa, Kei Okada, Masayuki Inaba. Learning-Based Wiping Behavior of Low-Rigidity Robots Considering Various Surface Materials and Task Definitions. the 2022 IEEE-RAS International Conference on Humanoid Robots, Okinawa, Japan, 2022.11.28-30. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 金沢 直晃, 河原塚 健人, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. Parametric Bias を用いた調理ロボットの包丁切断操作における食材特徴学習. 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 '22, 札幌, 2022.6.1-4. 査読無
2. 北川晋吾, 金沢直晃, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. タンジブルユーザインタフェースを用いた遠隔物体操作システムの日本科学未来館におけるユーザ評価. 第 40 回日本ロボット学会学術講演会, 東京, 2022.9.5-9. 査読無
3. 金沢直晃, 河原塚健人, 石田寛和, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. ロボットの反復 pick-and-place 自動データ収集による One-Shot 教示把持動作スキル学習システム. 第 40 回日本ロボット学会学術講演会, 東京, 2022.9.5-9. 査読無
4. 金沢直晃, 河原塚健人, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. Parametric Bias を用いた食材特徴を考慮可能な調理ロボットの包丁切断操作学習. 第 40 回日本ロボット学会学術講演会, 東京, 2022.9.5-9. 査読無
5. 金沢 直晃, 山口 直也, 北川 晋吾, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. 小型センシングモジュールによる知能化家電とロボットが連携して食関連生活支援を行うマルチエージェント型ハウスキーピングシステム. 第 23 回 SICE システムインテグレーション部門講演会, 千葉, 2022.12.14-16. 査読無
6. 河原塚 健人, 金沢 直晃, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. 低剛性ロボットの身体変化を考慮した自律的視覚サーボ学習. 第 23 回 SICE システムインテグレーション部門講演会, 千葉, 2022.12.14-16. 査読無
7. 金沢 直晃, 河原塚 健人, 大日方 慶樹, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. 調理支援ロボットの視覚 - 言語モデル時系列利用によるレシピ記述からの食材状態変化認識. 第 28 回ロボティクスシンポジウム, 和歌山, 2023.3.15-16. 査読有
8. 大日方 慶樹, 河原塚 健人, 金沢 直晃, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. 事前学習済み視覚 - 言語モデルを用いた巡回ロボットの長期記憶に基づく日常環境の状況分類. 第 28 回ロボティクスシンポジウム, 和歌山, 2023.3.15-16. 査読有
9. 河原塚 健人, 大日方 慶樹, 金沢 直晃, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. 視覚 - 言語モデルと遺伝的アルゴリズムに基づくロボットのための離散・連続状態認識. 第 28 回ロボティクスシンポジウム, 和歌山, 2023.3.15-16. 査読有

日下部 紗伎

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 日下部紗伎、片島拓弥、李 响、小林英津子、赤木 友紀. 「超高分子量 PEO/silica ナノ粒子混合系の物性構造相関」. 第 29 回次世代医工学研究会、口頭、オンライン、2022 年 10 月 25 日、査読無

島田 啓太郎

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Shimada K, Nakagawa K, Ultrafast single-shot imaging of plasma dynamics in light-matter interaction, The 33rd Canadian Materials Science Conference, Toronto, Canada, 2022. 6. 22-24. 査読無
2. Saiki T, Shimada K, Ishijima A, Song H, Sakuma I, Nakagawa K. Multi-frame single-shot ultrafast interferometry of laser-induced surface acoustic waves. International conference on ultrafast phenomena, Montreal, Canada, 2022. 7. 18-22. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 松下香穂, 富井直輝, 野田拓実, 島田啓太郎, 石島歩, 佐久間一郎, 堀崎遼一, 中川桂一. 広視野蛍光イメージングのための深層学習を用いたレンズアレイ光学系開発. Optics and Photonics Japan 2022, 宇都宮, 2022. 11. 13-16. 査読無
2. 田中理香子, 島田啓太郎, 中川桂一, 佐久間一郎, 小林英津子, 石島歩. コヒーレントブリルアン散乱分光法の高速化に向けたマルチ音響パルス発生器の開発. レーザー学会学術講演会第 43 回年次大会, 名古屋, 2023. 1. 18-20. 査読無

鄭 世暲

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 鄭世暲. 「論争中の病」の経験の脱正統化と抵抗: 化学物質過敏症患者に関する医療社会学的研究, 東京大学大学院, 2022 年, 修士学位論文

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 鄭世暲. 「論争中の病」の経験の脱正統化と抵抗: 化学物質過敏症患者に関する医療社会学的研究. 環境社会学会特別例会 修論・博論発表会, オンライン, 2023.3.13 査読なし

鈴木 はるの

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Eltaybani S, Suzuki H, Igarashi A, Sakka M, Amamiya Y, Yamamoto-Mitani N. Long-term care facilities' response to the COVID-19 pandemic: A protocol of a cross-sectional, multi-site, international survey. *Nursing Open*, 2022;9 (5): 2506–2517. 査読有
2. Eltaybani S, Yasaka T, Fukui C, Inagaki A, Takaoka M, Suzuki H, Maruyama M, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Weller C, Yamamoto-Mitani N. Family-oriented interventions in long-term care residential facilities for older people: A scoping review of the characteristics and outcomes. *Nursing Forum*, 2022;57 (5): 800–818. 査読有
3. 鈴木はるの, 五十嵐歩, 坂井志麻, 目麻里子, 高岡茉奈美, 松本博成, 伊藤研一郎, 久貝波留菜, 山本則子. 一人称体験のできる認知症教育プログラムの受講が看護学生の態度に与える効果: 前向き観察研究. *日本認知症ケア学会誌*, 2022, In press. 査読有
4. 鈴木はるの, 五十嵐歩, 山本則子. 介護予防事業における地域高齢者の包括的アセスメントによる健康ニーズの実態と関連要因の検討. *医療の広場*. 公益財団法人政策医療振興財団. 2022; 62 (10), 15-20. 査読無
5. 澤 陽子, 松本 博成, 井垣 美佐子, 植田 智恵子, 牛山 博志, 大竹 徳明, 織田 つや子, 神 美保, 直嶋 美和子, 野中 論子, 本間 雅未, 丸地 由美子, 久保 智子, 鈴木 はるの, 高岡 茉奈美, 久貝 波留菜, 五十嵐 歩. 会えなくても地域をつなぐ「オンライン N-impro」. *コミュニケーション*. 2022; 24 (9). 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Suzuki H, Igarashi A, Yasaka T, Kato R, Kugai H, Takaoka M, Yamamoto-Mitani N. The feasibility of telehealth video assessment for community-dwelling older adults using interRAI assessment during COVID-19 pandemic. *The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS conference, Tokyo, Japan, 2023. 3. 10-11.* 査読有
2. Wu J, Igarashi A, Suzuki H, Takaoka M, Matsumoto H, Kugai H, Yamamoto-Mitani N. A dementia education program using virtual reality for nurses in acute care hospitals: A quasi-experimental study. *The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS conference, Tokyo, Japan, 2023. 3. 10-11.* 査読有
3. Ito K, Suzuki H, Kugai H, Takaoka M, Matsumoto H, Sakka M, Yamamoto-Mitani N, Igarashi A. HMD in General Public for Training: Case Study of Standardized Dementia-Friendly Initiative in Japan. *IEEE 41st International Conference on Consumer Electronics (ICCE), Las Vegas, USA, 2023. 1. 6-8.* 査読有
4. Suzuki H. Attitude toward own aging and impairment among older adults with visual impairment in late life. *The IARU Aging, Longevity and Health Conference 2022, Copenhagen, Denmark, 2022. 10. 19-21.* 査読無
5. Suzuki H, Igarashi A, Matsumoto H, Kugai H, Takaoka M, Ito K, Hagiwara Y, Sakka M, Yamamoto-Mitani N. Effectiveness of a Dementia Educational Program Using Virtual Reality Technology for the General Public: A

Randomized Controlled Trial. *The 22nd IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Argentina, 2022. 6. 15.* 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 鈴木はるの, 五十嵐歩, 坂井志麻, 目麻里子, 松本博成, 高岡茉奈美, 久貝波留菜, 山本則子. 看護学生を対象とした「認知症当事者の一人称視点体験ができる視聴覚教材」を用いた教育プログラムの効果. *第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12. 3-4.* 査読有
2. 伊藤研一郎, 鈴木はるの, 久貝波留菜, 高岡茉奈美, 松本博成, 目麻里子, 五十嵐歩, 山本則子. 地域住民を対象とした養成講座におけるHMDを用いたVR教材について: 認知症サポーター養成講座での取り組み. *第27回日本バーチャルリアリティ学会大会, 札幌, 2022. 9. 12-14.* 査読無
3. 伊藤研一郎, 鈴木はるの, 久貝波留菜, 高岡茉奈美, 松本博成, 目麻里子, 五十嵐歩, 山本則子. 地域住民の認知症支援意識を高める統合プログラムにおける認知症VRコンテンツの評価. *ヒューマンインタフェースシンポジウム 2022, 大阪, 2022. 9. 2.* 査読無

陳 童

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Sun Y, Zong C, Pancheri F, Chen T & Lueth T. Design of topology optimized compliant legs for bio-inspired quadruped robots. *Sci Rep* 13, 4875 (2023). 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Chen T. SLS Printed Volute Springs and Application in Quadruped Robots. *TUM-UTokyo On-line Workshop 2023 "Excellence, Diversity, and Mobility "@TUM Garching, Munich, Germany, 2023.02.27.* 査読無

弦本 健太郎

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Tsurumoto K, Ohnishi W, Takafumi K. Task flexible and high performance ILC: Preliminary analysis of combining a basis function and frequency-domain approach. *IFAC World Congress, Yokohama, 2023.7.9-14 予定.* 査読有
2. Tsurumoto K, Ohnishi W, Takafumi K. Combined Approach for Achieving Both Task Flexibility and Higher Tracking Performance in ILC. *Benelux Meeting on Systems and Control, Elspeet, Netherlands, 2023.3.21-23.* 査読有
3. Oei L, Tsurumoto K, Ohnishi W. Improved Intersample Behavior of Non-Minimum Phase Systems using State-

Tracking Iterative Learning Control. IEEE International Conference On Mechatronics, Loughborough, United Kingdom, 2023.3.15-17. 査読有

4. Tsurumoto K, Ohnishi W, Takafumi K, Strijbosch N, Oomen T. Non-Causal State Estimation for Improved State Tracking in Iterative Learning Control. IFAC Modeling, Estimation and Control Conference, Jersey City, USA, 2022.10.2-5. 査読有
5. Tsurumoto K, Ohnishi W, Takafumi K, Strijbosch N, Oomen T. A non-causal approach for suppressing the estimation delay of state observer. IEEE American Control Conference, Atlanta, USA, 2022.6.8-10. ポスター 査読有
6. Tsurumoto K, Ohnishi W, Takafumi K, Strijbosch N, Oomen T. Improved state estimation by non-causal state observer. IEEJ International Workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization, Saitama, 2022.3.8-10. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 弦本健太郎, 大西亘, 古関隆章. 基底関数と周波数領域設計を組み合わせたタスク柔軟で高精度な ILC の基礎検討. メカトロニクス制御研究会, 東京, 2022. 9. 26. 査読無

● 受賞歴

1. 2023年1月「メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞」(弦本健太郎)
2. 2022年8月 IEEJ Industry Applications Society Excellent Presentation Award (Tsurumoto K)

田子健

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Tian Z., Matsunaka R. & Hiraki K. Social norm cognition in preverbal infants: Recognition and application of “sequence of arrival” rules by 11-month-olds. Budapest CEU Conference on Cognitive Development (BCCCD) 2023, Budapest, Hungary, 2023. 1. 5-7. 査読有

【国内学会・シンポジウムにおける発表】

1. 岸山健, 田子健, 広瀬友紀, 幕内充. テキストマイニングを用いた認知機能研究の分析効率化. 日本認知科学会第39回大会, オンライン, 2022. 9. 8-10. 査読有
2. 田子健, 松中玲子, 開一夫. 乳児期における社会的ルール発達のメカニズムの考察: 順番を守るルールはいかに発達するか. 日本発達神経科学会第11回学術集会, オンライン, 2022. 11. 26-27. 査読有

中島 洸樹

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 中島洸樹, 橋本直樹, 応振智, 舒利明, 杉田直彦. 速度制御・力制御を両立した直列弾性アクチュエータ搭載筋電義手の開発. 第49回日本臨床バイオメカニクス学会, 弘前, 2022. 11. 4-5. 査読有

中島 優樹

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Nakashima Y., Miyazaki T., Uchida S., Hatano H., Miyahara Y., Matsumoto A., Cabral H., Guanidine-phosphate interactions stabilize polyion complex micelles based on flexible cationomers to improve mRNA delivery. 第32回バイオマテリアル若手研究会, 八王子, 2022. 10. 査読無

牧野 巧

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Watanabe S, Sudo Y, Makino T, Kimura S, Tomita K, Noguchi M, Sakurai H, Shimizu M., Takahashi Y, Sato R, & Yamauchi Y. Skeletal muscle releases extracellular vesicles with distinct protein and miRNA signatures that function in the muscle microenvironment. PNAS Nexus. 2022;1 (4): pgac173. 査読有
2. Honda M*, Makino T*, Zhao X, Matsuto M, Sakurai H, Takahashi Y, Shimizu M, Sato R, Yamauchi Y. Pathophysiological levels of GDF11 activate Smad2/Smad3 signaling and induce muscle atrophy in human iPSC-derived myocytes. Am J Physiol Cell Physiol. 2022; 323: C1402–C1409. 査読有 (* equal contribution)

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 牧野 巧, 櫻井英俊, 佐藤隆一郎, 山内祥生. ヒト iPSC 細胞を用いた筋細胞成熟化における Smad シグナルの機能評価. 日本農芸化学会 2023 年度大会, 広島, 2023.3. 14-17. 査読無

● 受賞歴

1. 2022.11.1 「APS select」(Mikako Honda,* Takumi Makino,* Xiaolin Zhao, Mariko Matsuto, Hidetoshi Sakurai, Yu Takahashi, Makoto Shimizu, Ryuichiro Sato, and Yoshio Yamauchi. [Pathophysiological levels of GDF11 activate Smad2/Smad3 signaling and induce muscle atrophy in human iPSC-derived myocytes])

増田 桃佳

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Masuda M, Natsuhara K, Sueyoshi S, Odani S, Yagyu F, Tadokoro K, Onishi M, Nakao R, Goto C, Umezaki M. Association between the dietary inflammatory index and disability in Japanese older people. *Public Health Nutrition*, 2022; 25 (11): 3137-3145. 査読有

松浦 慎太郎

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Matsuura S. Convention-Shifting in Conditionals and Mixed Quotation. The 49th International Meeting of Hongo Metaphysics Club, Tokyo, Japan, 2023. 2.15. 査読無

山口 達寛

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Yamaguchi T, Xu J, Sasaki K. Age and sex differences in force steadiness and intermuscular coherence of lower leg muscles during isometric plantar flexion. *Experimental Brain Research*, 2023; 241: 277-288. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 山口達寛, 鴻崎香里奈, 中里浩一, 佐々木一茂. 低強度運動は随意筋力と神経筋接合部の信号伝達機能の加齢変化を抑制する. 第30回日本運動生理学会, オンライン, 2022. 8. 25-26. 査読無
2. 山口達寛, 鴻崎香里奈, 中里浩一, 佐々木一茂. A novel assessment of neuromuscular transmission in living mice. 第100回日本生理学会, 京都, 2023. 3. 14-16. 査読有

● 受賞歴

1. 2023年3月「広域科学専攻奨励賞」(山口達寛)

山下 港

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yamashita M, Hattori K, Kirisako H, Chen X, Ugawa M, Ota S. HIGH-THROUGHPUT PARALLEL OPTOFLUIDIC 3D-IMAGING OF ADHERENT CELLS IN ADHERENT STATE. The 26th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences. Hangzhou, China, 2022. 10. 23-27. 査読有

2. Hattori K, Goda Y, Yamashita M, Yoshioka Y, Kojima R, Ota S. DROPLET ARRAY-BASED PLATFORM FOR TIME-LAPSE QUANTIFICATION OF EXTRACELLULAR VESICLE RELEASE FROM SINGLE CELLS. The 26th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences. Hangzhou, China, 2022. 10. 23-27. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 山下港, 服部一輝, 陈骁尧, 鶴川昌士, 太田禎生. High-throughput parallel optofluidic 3D-imaging of adherent cells in adherent state. 第21回東京大学生命科学シンポジウム, 東京, 2023. 6. 17-18. 査読無
2. Hattori K, Goda Y, Yamashita M, Yoshioka Y, Kojima R, Ota S. Droplet Array-Based Platform for Parallel Optical Analysis of Dynamic Extracellular Vesicle Secretion from Single Cells. 第46回日本分子生物学会年会, 神戸, 2023. 12. 6-8. 査読有
3. Yamashita M, Tamamitsu M, Kirisako H, Goda Y, Chen X, Hattori K, Ota S. High-throughput and highly scalable 3D imaging platform for 3D cell culture models. 第2回システム生物医学研究会, 東京, 2023. 12. 16. 査読無
4. Hattori K, Goda Y, Yamashita M, Yoshioka Y, Kojima R, Ota S. Droplet Array-Based Platform for Parallel Optical Analysis of Dynamic Extracellular Vesicle Secretion from Single Cells. 第2回システム生物医学研究会, 東京, 2023. 12. 16. 査読無

● 受賞歴

1. 2023年12月16日「第2回システム生物医学研究会優秀研究賞」(Yamashita M, Tamamitsu M, Kirisako H, Goda Y, Chen X, Hattori K, Ota S. High-throughput and highly scalable 3D imaging platform for 3D cell culture models.)

横峰 真琳

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Kim J, Kobayashi H, Yokomine M, Shiratori. Y, Ueda T, Takeuchi K, Umezawa K, Kuroda D, Tsumoto K, Morimoto J, Sando S. Residue-based program of a β -peptoid twisted strand shape via a cyclopentane constraint: *Organic & Biomolecular chemistry*, 2022; 20: 6994-7000. 査読有

【国内学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yokomine M, Morimoto J, Fukuda Y, Kuroda D, Ueda T, Takeuchi K, Nagatoishi S, Tsumoto K, Sando S. Design of MDM2-binding peptoids and evaluation of the binding mode. 第59回ペプチド討論会, 仙台, 2022. 10. 26-28. 査読無